

公益財団法人身体教育医学研究所

2030年のあるべき姿の実現に向け優先的に取り組んでいるゴール



企業等の概要

＜事業内容＞保健・医療・福祉・介護・教育・スポーツ等の諸分野の調査研究・教育啓発・情報発信に取り組む地域密着型シンクタンク

＜所在地＞長野県東御市布下6-1 ＜設立年＞1999年



～「からだを育み、こころを育み、きずなを育む」研究と実践を地域（信州・東御）から発信する～



取組事例

＜事業活動における具体的な実践事例＞



◆「子どもの元気な育ち」を促す「里山探検活動」を実践。子どもや保護者との自然体験活動の中で山地生態系保全

好奇心を愛おむ。挑戦を見守る。可能性を信じる。そうして、生きるちからは伸びていく。
「東御の子どもの元気な育ちを支えるネットワーク里山探検事業」は、子どもが心の豊かから安心して力だけで遊びに没頭できる環境（自然・時間・空間・仲間）を整えて、子どもが自ららしく育つことを応援しています。年少年齢に自身の興味や関心のまま思い通り身体を動かすことは、自律性を育てることにつながります。大人が挑戦や失敗を許し与える遊びの環境ですが、やらされる遊びに頼ると子どものエネルギーを削ぎ取ってしまう可能性があります。自然の中で、子どもたちと共に、好奇心に王道に、全身で遊びあめる時間をつくってあげませんか。



活動に取り組み、年間総参加人数を2030年には4,000人にする。

◆地域住民の「心身の健康」のために、転倒・介護・フレイル予防、生活習慣病予防等の活動の中で健康管理能力の向上に取り組む。

◆アスリートから愛好者まで、障がいのある人もない人も、誰もが関われる「みんなのスポーツ」の実践を通して地域を元気にする。

＜法人活動におけるSDGsへの取り組み＞



◆法人役員(理事・監事)定数に占める女性の割合を4分の1以上

◆公益法人として、高い透明性、適切な意思決定、

効果的なパートナーシップを重視して運営。

詳細は→

